麻布大学企業調査の結果
2019年度

令和2（2020）年10月

麻布大学 キャリア・就職支援課
調査委託：株式会社リアセック

調査概要

- 調査目的：卒業生のキャリアの状況に関して、進路先の企業または機関に対して調査を行い、
  教育改善や就職支援に資する基礎データを取得するため
- 調査対象：麻布大学への求人企業をはじめ、過去に就職実績のある企業や機関
- 調査方法：インターネットによるアンケート調査　（調査委託：株式会社リアセック）
- 調査期間：2020年2月21日～2020年3月6日
- 発送数：3,669社
- 集計対象数：有効回答数：266社（回答企業数：375社）
- 回収率：有効回答：7.2%（回答企業：10.2%）
- 調査内容:Q1.企業名　Q2.業種　Q3.担当部署名
  Q4.担当者役職　Q5.担当者氏名　Q6.担当部署電話番号
  Q7.従業員規模　Q8.本社所在地
  Q9.大卒者の新規採用者に求める能力と卒業生の評価
  Q10.麻布大学卒業生と他の同年代の入社と比較して満足しない点
  Q11.大卒者の新規採用者に対して求める能力
  Q12.在学時の経験で重視するもの
  Q13.麻布大学学生への中長期インターンシップ実施について
  Q14.「実施しない」又は「わからない」と回答した理由（Q13.より）
  Q15.これからの麻布大学に期待すること
  Q16.インタビュー調査の協力について
  Q17.インタビュー協力企業メールアドレス

調査に使用した能力フレーム

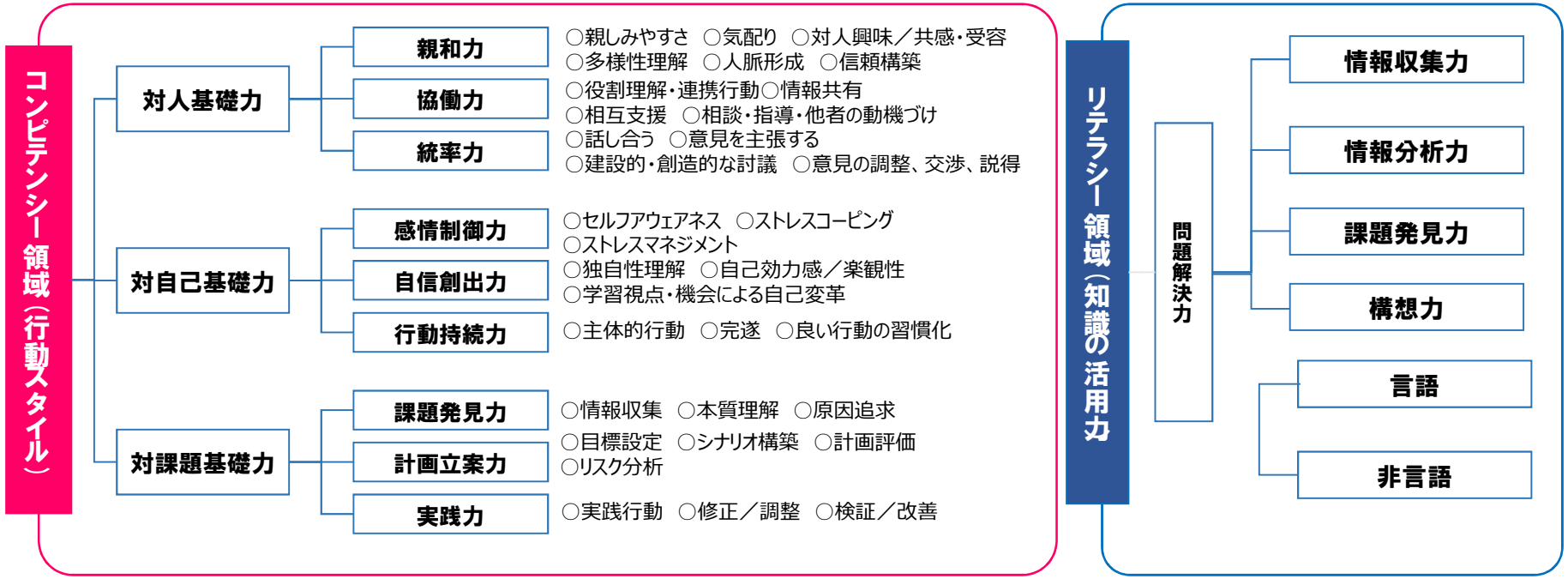
本調査では企業に対し、

①新卒段階で必要とされている能力

②卒業生の印象

２つの観点から、アンケート調査を実施しました。

この調査項目のベースとなる能力要素は、下図の能力フレームを使用しています。



この能力フレームは、

- **ダブリ、重なりがなく、体系的にまとめられていること**
- **経産省や大阪商工会議所など産業界からの求人ニーズを検証済であること（ＯＥＣＤキーコンピテンシー、社会人基礎力など）**
- **ジェネリック測定アセスメント（ＰＲＯＧ）により、在学生の傾向測定も可能であること**

から、調査結果を今後の大学での教育・在学生への指導の検討材料として活用頂くことが可能です。

企業調査からわかった麻布大学の「強み」と「課題領域」

■麻布大学の教育の「**強み**」

▶ 誰に対しても、和やかに接することができる	（対人基礎力：親和力）
▶ 人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける	（対人基礎力：親和力）
▶ 相手の信頼を得て、豊かな人間関係を築くことができる	（対人基礎力：親和力）
▶ チームや集団の中で担うべき自分の役割を自覚できる	（対人基礎力：協働力）
▶ 周囲と連携を取り、協力しながら仕事を進められる	（対人基礎力：協働力）
▶ 責任感を持ってやり遂げる	（対自己基礎力：行動持続力）
▶ 常に主体的に学び続ける姿勢を持っている	（対自己基礎力：行動持続力）

■麻布大学の教育の「**課題領域**」

▷ 問題点を客観的に整理できる	（リテラシー：課題発見力）
▷ プレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対応できる	（対自己基礎力：感情制御力）
▷ ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる	（対自己基礎力：感情制御力）
▷ 未経験のことにも、臆せず取り組める	（対自己基礎力：自信創出力）

※ 「Q9.大卒者の新規採用者に求める能力と卒業生の評価」のポートフォリオ分析結果より

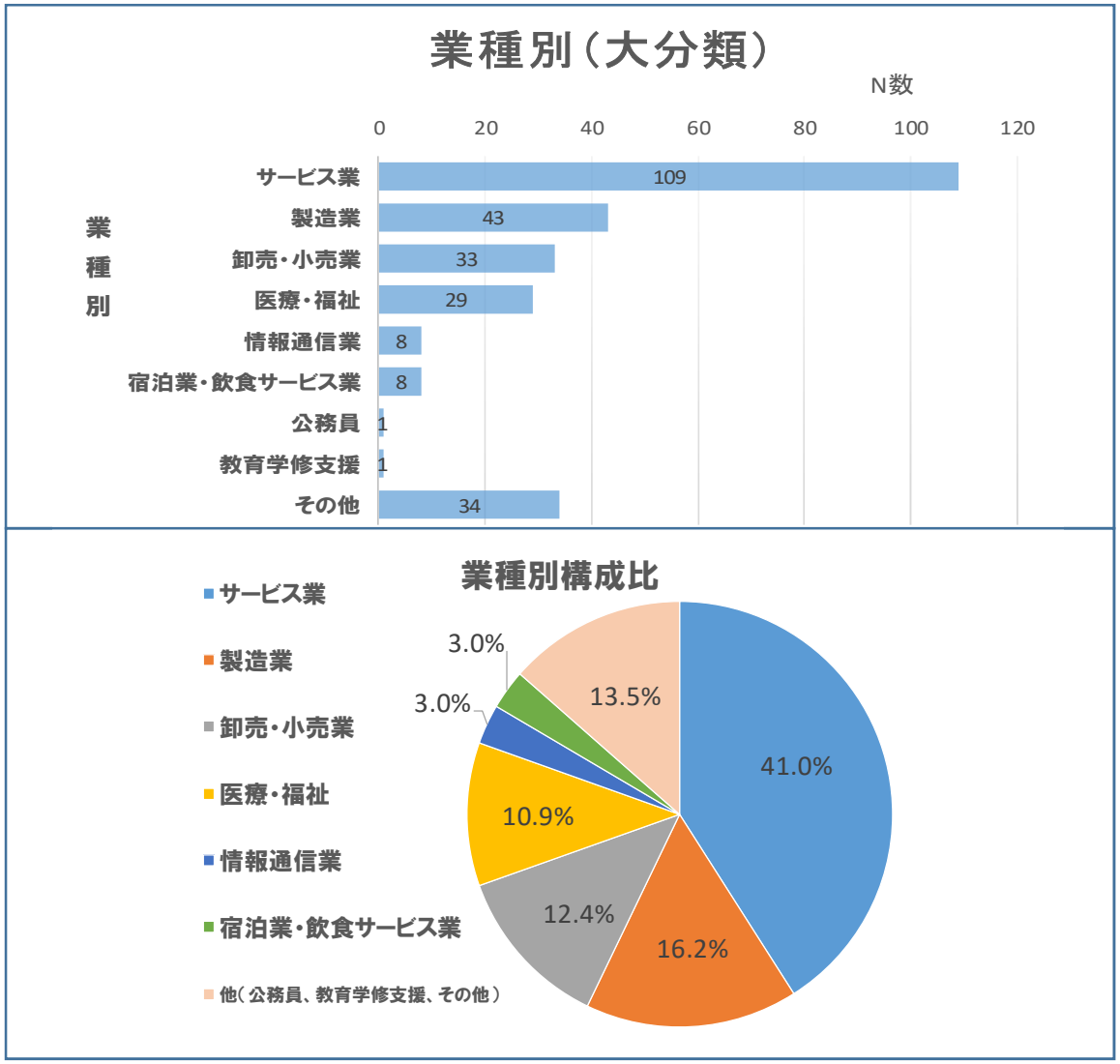
アンケート集計結果
（全体集計結果）

Q2.業種

単位：社

全体	266
公務員	1
国家	0
都道府県	1
市区町村	0
製造業	43
食料品製造業	27
飲料・たばこ・飼料製造業	5
化学工業	4
製造業その他	7
情報通信業	8
卸売・小売業	33
卸売	19
小売	10
ペットショップ	0
卸売・小売その他	4
宿泊業・飲食サービス業	8
医療・福祉	29
病院	13
診療所	3
その他の医療（臨床検査所・治験等）	11
教育学修支援	1
その他の医療（臨床検査所・治験等）	0
学校教育	0
動物園・水族館	0
教育学修支援その他	1
複合サービス	0
ＮＯＳＡＩ	0
複合サービスその他	0
サービス業	109
実験動物関連	2
動物病院	92
学術・開発研究機関	0
その他のｻｰﾋﾞｽ業	15
上記以外(記入)	34
その他	34

✓ 全体の中でTOP３として、サービス業（動物病院を含む）が最も多く41.0%、次いで製造業16.2%、卸売・小売業12.4%と続く。



Q7.従業員の規模

✓ 全体では「10～49人」が28.6%と最も多い。つづいて、「300～999人」が17.3%となった。

Q7. 従業員の規模

		9人以下	10～49人以下	50～99人以下	100～299人以下	300～999人	1000～4999人	5000人以上	無回答
	(%)								
全体	(n= 266)	13.5	28.6	6.8	14.3	17.3	14.7	4.9	

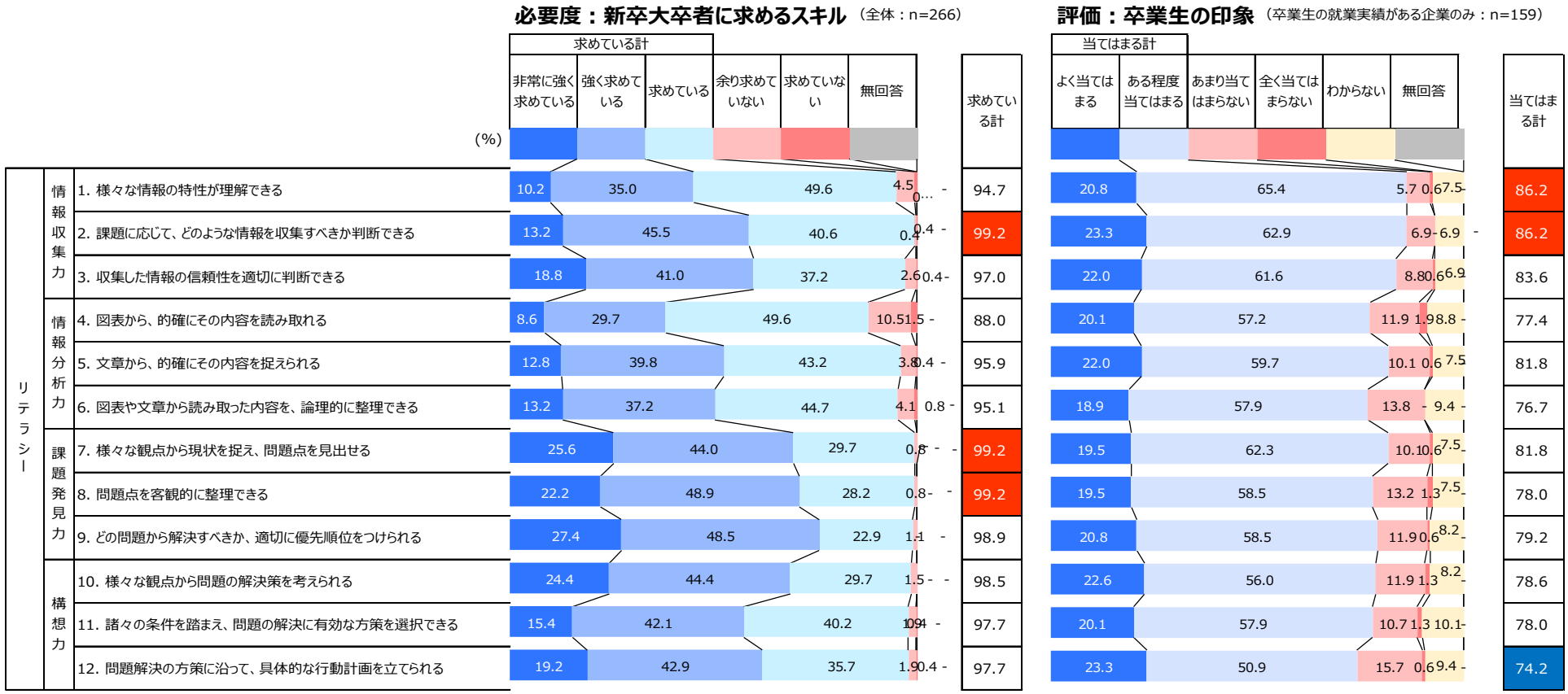
Q8.本社所在地について

✓ 全体では「東京都」が28.9%と最も多い。つづいて、「神奈川県」が13.5%となった。

Q8. 本社所在地	N数	構成比（%）
全体	266	100.0
東京都	77	28.9
神奈川県	36	13.5
千葉県	17	6.4
愛知県	16	6.0
埼玉県	15	5.6
大阪府	12	4.5
兵庫県	9	3.4
広島県	7	2.6
北海道	6	2.3
静岡県	6	2.3
群馬県	5	1.9
新潟県	5	1.9
京都府	5	1.9
岡山県	5	1.9
茨城県	4	1.5
岐阜県	4	1.5
栃木県	3	1.1
長野県	3	1.1
滋賀県	3	1.1
奈良県	3	1.1
愛媛県	3	1.1
大分県	3	1.1
三重県	2	0.8
和歌山県	2	0.8
香川県	2	0.8
福岡県	2	0.8
青森県	1	0.4
岩手県	1	0.4
宮城県	1	0.4
福島県	1	0.4
石川県	1	0.4
福井県	1	0.4
山梨県	1	0.4
山口県	1	0.4
高知県	1	0.4
長崎県	1	0.4
宮崎県	1	0.4

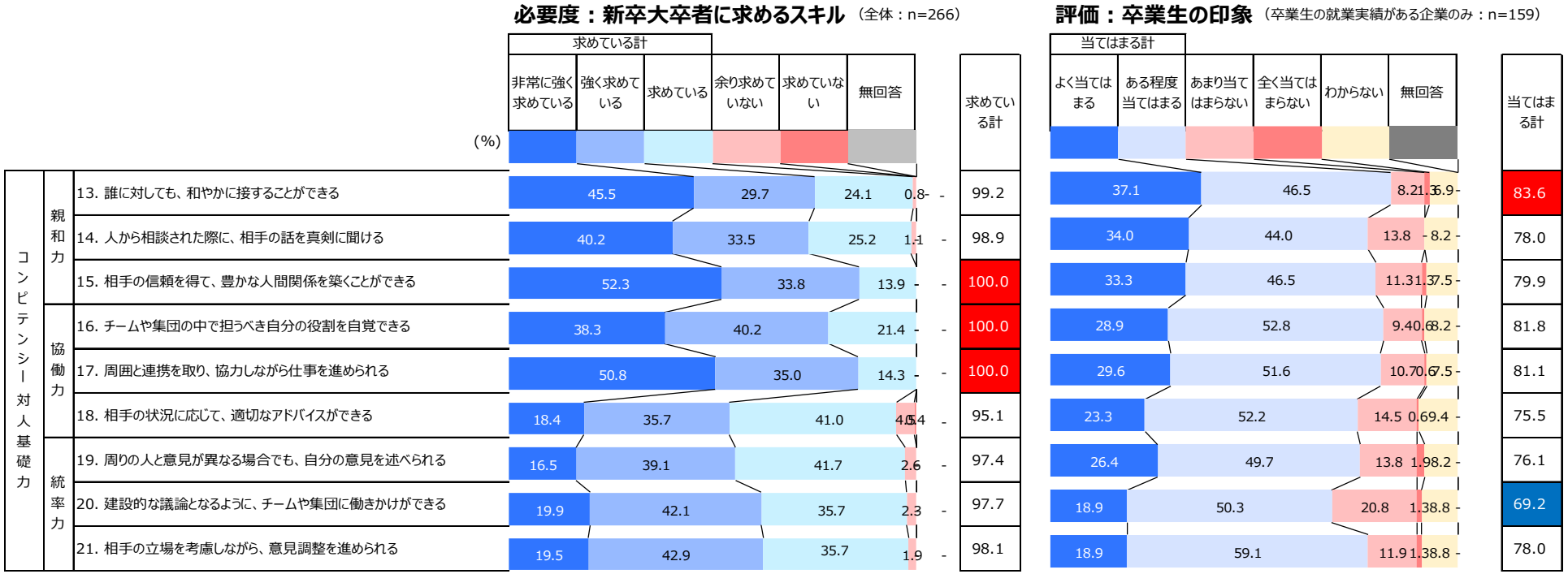
Q9.必要度と評価：リテラシー

- ✓ リテラシー12項目のうち、必要度「非常に強く求めている」が最も高いのは、「9. どの問題から解決すべきか、適切に優先順位をつけられる」の27.4%であった。
- ✓ 評価「当てはまる計」が最も高いのは「1. 様々な情報の特性が理解できる」、「2. 課題に応じて、どのような情報を収集すべきか判断できる」で86.2%であった。
- ✓ 評価「当てはまる計」が最も低いのは「12. 問題解決の方策に沿って、具体的な行動計画を立てられる」で74.2%であった。



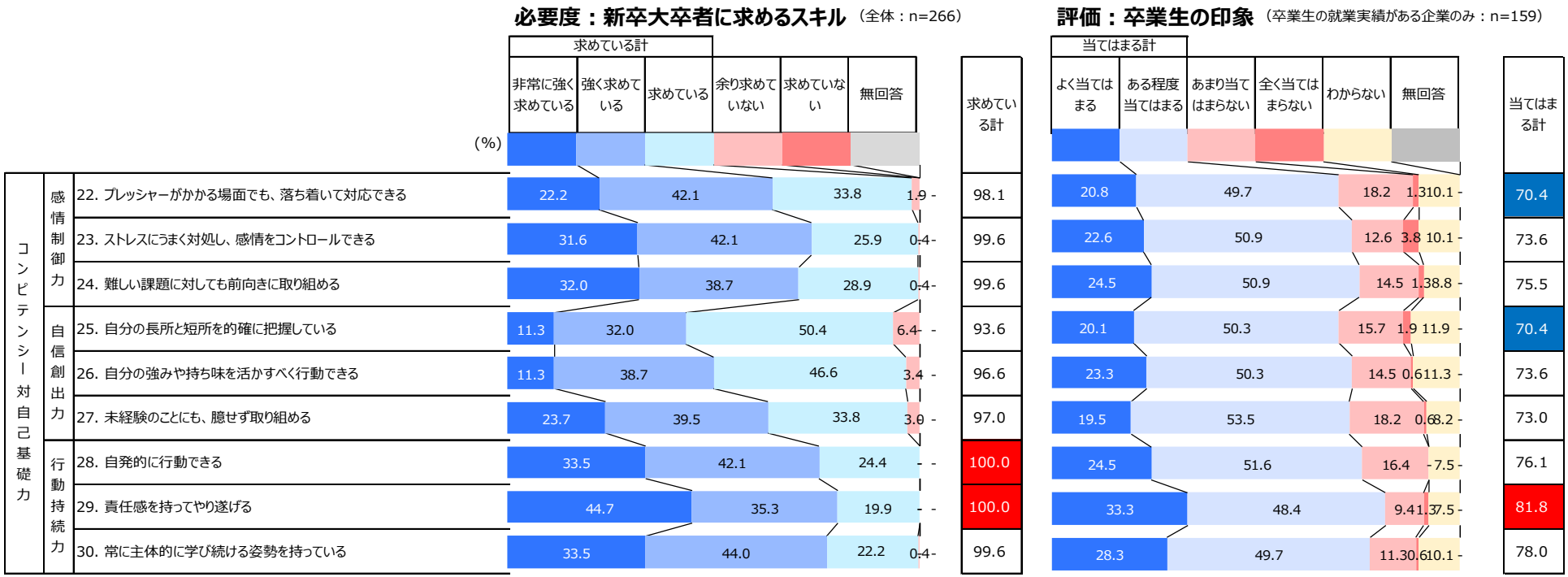
Q9.必要度と評価：コンピテンシー対人基礎力

- ✓ コンピテンシー対人基礎力9項目のうち、最も必要度「非常に強く求めている」が高いのは、「15. 相手の信頼を得て、豊かな人間関係を築くことができる」の52.3%であった。
- ✓ 評価「よく当てはまる」が最も高いのは「13. 誰に対しても、和やかに接することができる」で37.1%であった。
- ✓ 評価「当てはまる計」で最も低いのは「20. 建設的な議論となるように、チームや集団に働きかけができる」で69.2%であった。



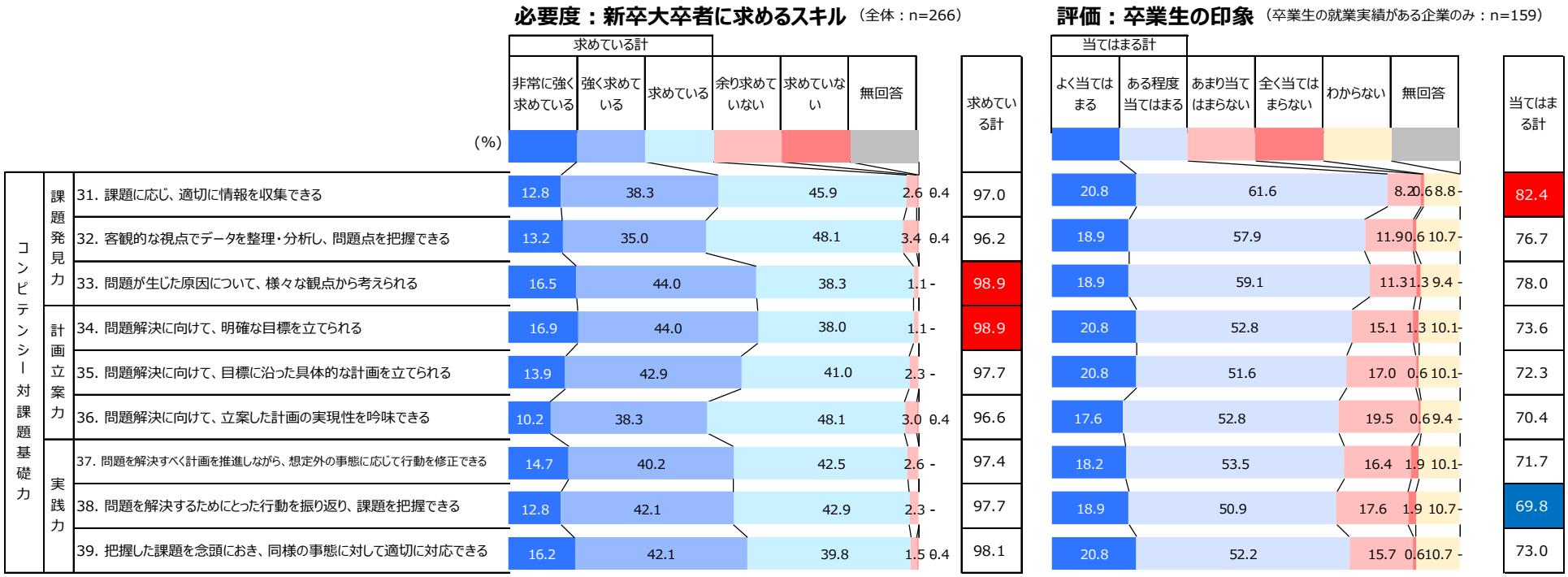
Q9.必要度と評価：コンピテンシー対自己基礎力

- ✓ コンピテンシー対自己基礎力9項目のうち、必要度「非常に強く求めている」が最も高いのは、「29. 責任感をもってやり遂げる」で44.7%であった。
- ✓ 評価「よく当てはまる」が最も高いのは「29. 責任感をもってやり遂げる」で33.3%であった。
- ✓ 評価「よく当てはまる」が最も低いのは「27. 未経験のことにも、臆せず取り組める」で19.5%であった。



Q9.必要度と評価：コンピテンシー対課題基礎力

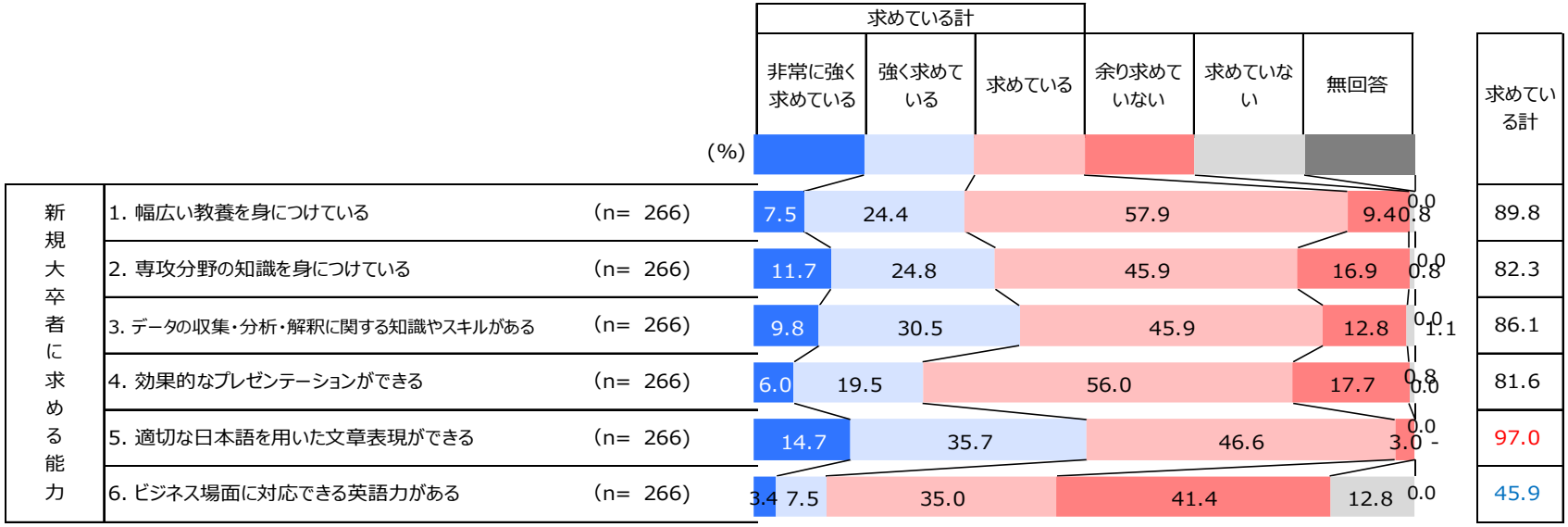
- ✓ コンピテンシー対課題基礎力9項目のうち、必要度「非常に強く求めている」が最も高いのは、「34. 問題解決に向けて、明確な目標を立てられる」で16.9%であった。
- ✓ 評価「当てはまる計」が最も高いのは「31. 課題に応じ、適切に情報を収集できる」で82.4%であった。
- ✓ 評価「当てはまる計」が最も低いのは「38. 問題を解決するためにとった行動を振り返り、課題を把握できる」で69.8%であった。



Q11. 大卒者の新規採用者に対して求める能力

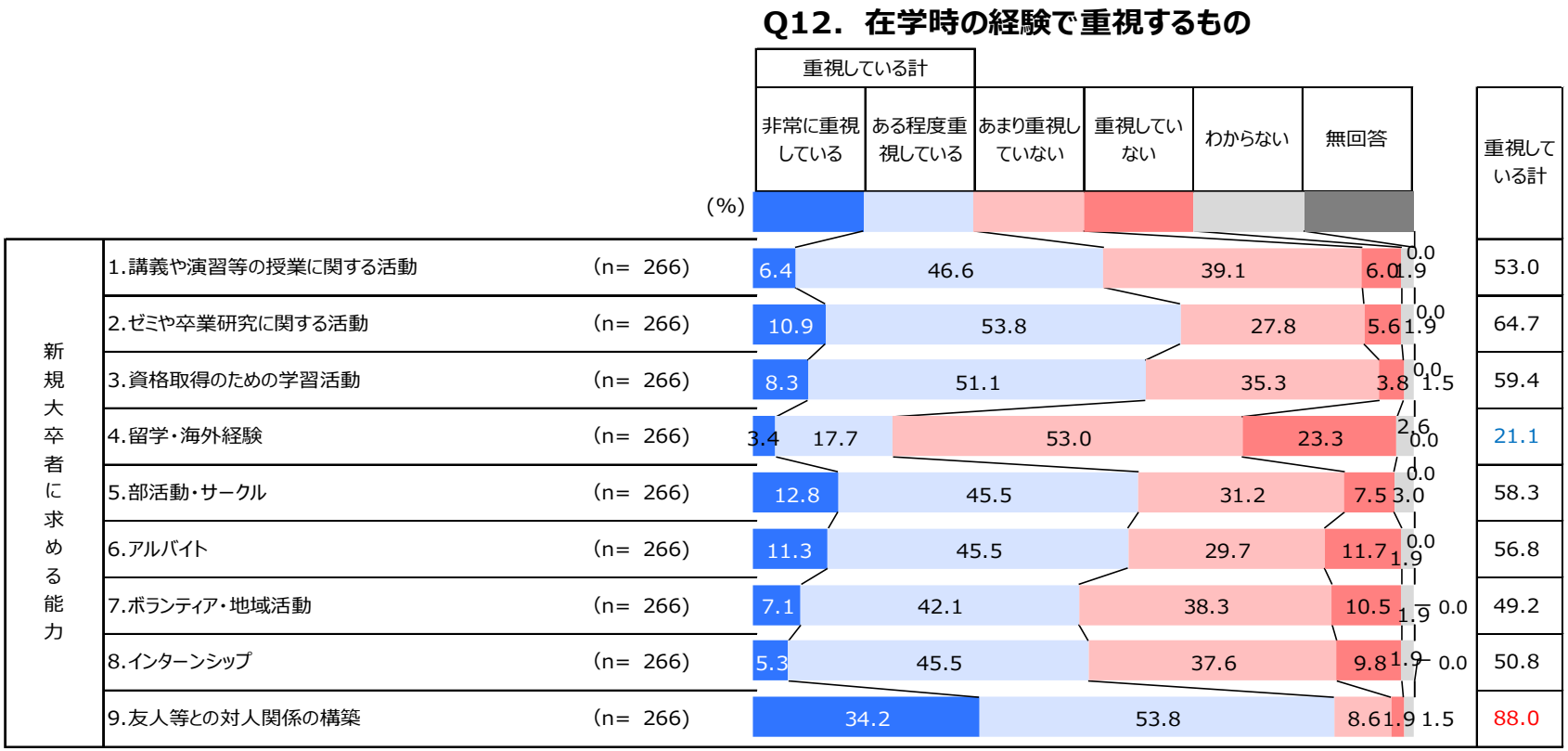
- ✓ 大卒者の新規採用者に対して求める能力の6項目のうち、「非常に強く求めている」が最も高いのは、「5. 適切な日本語を用いた文章表現ができる」で14.7%となった。「求めている計」も97%と高い。
- ✓ 「非常に強く求めている」が最も低いのは、「ビジネス場面に対応できる英語力がある」で、「非常に強く求めている」は3.4%に留まる。「求めている計」も45.9%で最も低い。

Q11. 大卒者の新規採用者に対して求める能力



Q12. 在学時の経験で重視するもの

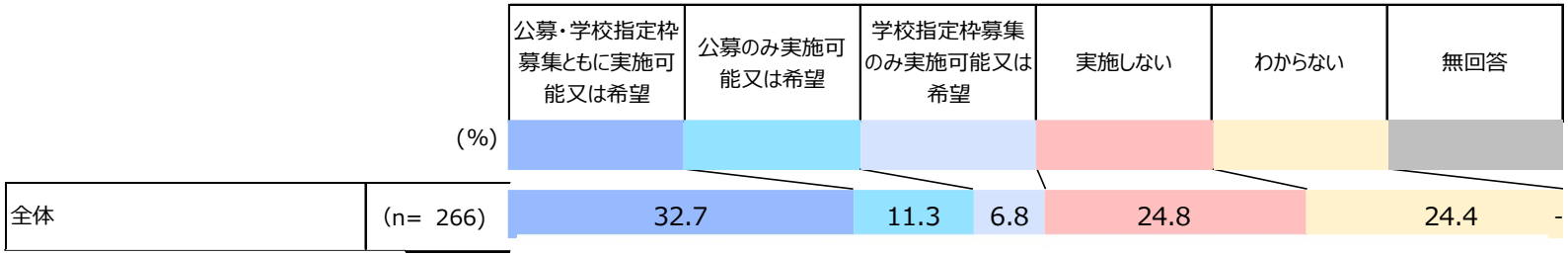
- ✓ 在学時の経験で重視するものの9項目のうち、「非常に重視している」が最も高いのは、「 9.友人等との対人関係の構築」で34.2%と最も高い。「重視している計」も88.0%と高い。



Q13. 本学学生への中長期インターンシップ実施

✓ 全体では「公募・学校指定枠募集ともに実施可能又は希望」が32.7%と最も多い。

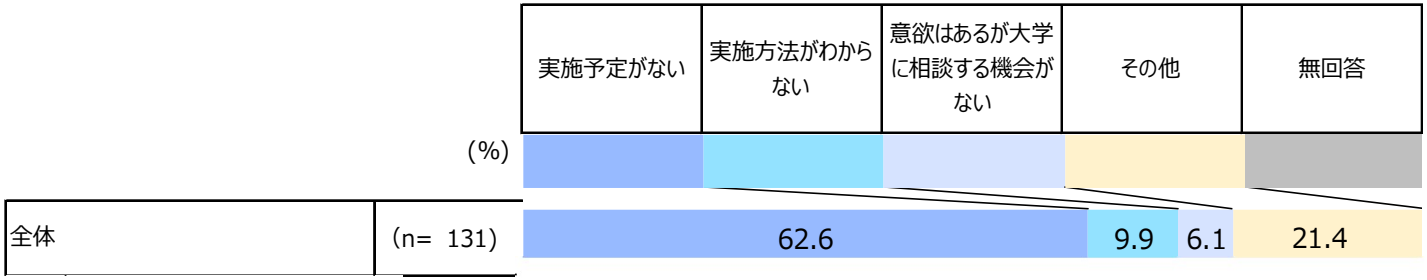
Q13. 本学学生への中長期インターンシップ実施について



Q14.「実施しない」又は「わからない」と回答された理由

✓ Q13「本学学生への中長期インターンシップ実施」で「実施しない」又は「分からない」と回答した理由は、
全体で「実施予定がない」が62.6%と最も多い。

Q14.「実施しない」又は「わからない」と回答された理由



ポートフォリオ分析

ポートフォリオ分析　卒業生評価×必要度

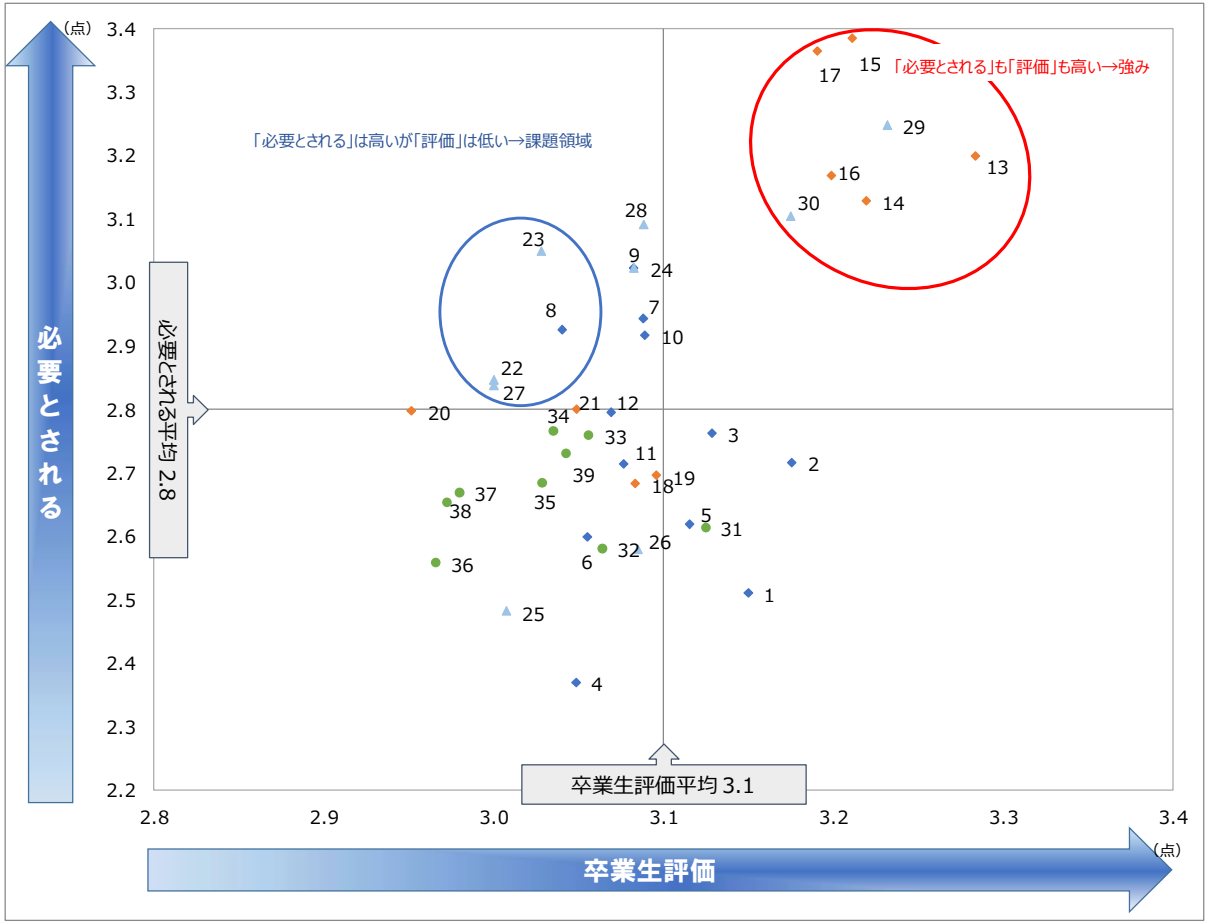
全体

【課題領域の項目】

- ✓ 8. 問題点を客観的に整理できる
- ✓ 22. プレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対応できる
- ✓ 23. ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる
- ✓ 27. 未経験のことにも、臆せず取り組める

【強みの項目】

- ✓ 13. 誰に対しても、和やかに接することができる
- ✓ 14. 人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける
- ✓ 15. 相手の信頼を得て、豊かな人間関係を築くことができる
- ✓ 16. チームや集団の中で担うべき自分の役割を自覚できる
- ✓ 17. 周囲と連携を取り、協力しながら仕事を進められる
- ✓ 29. 責任感を持ってやり遂げる
- ✓ 30. 常に主体的に学び続ける姿勢を持っている



N=159

※卒業生の就業実績がある企業のみ

ポートフォリオ分析まとめ

【全体】

強み：13. 誰に対しても、和やかに接することができる（対人基礎力：親和力）
強み：14. 人から相談された際に、相手の話を真剣に聞ける（対人基礎力：親和力）
強み：15. 相手の信頼を得て、豊かな人間関係を築くことができる（対人基礎力：親和力）
強み：16. チームや集団の中で担うべき自分の役割を自覚できる（対人基礎力：協働力）
強み：17. 周囲と連携を取り、協力しながら仕事を進められる（対人基礎力：協働力）
強み：29. 責任感を持ってやり遂げる（対自己基礎力：行動持続力）
強み：30. 常に主体的に学び続ける姿勢を持っている（対自己基礎力：行動持続力）

課題：8.　問題点を客観的に整理できる（リテラシー：課題発見力）
課題：22. プレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対応できる（対自己基礎力：感情制御力）
課題：23. ストレスにうまく対処し、感情をコントロールできる（対自己基礎力：感情制御力）
課題：27. 未経験のことにも、臆せず取り組める（対自己基礎力：自信創出力）

- ✓ 企業の必要度、卒業生の評価からみて、「強み」となっているスキルは、対人基礎力領域の親和力と協働力、対自己基礎力領域の行動持続力の項目である。これに対して「課題」となっているスキルは、リテラシー領域の課題発見力、対自己基礎力領域の感情制御力と自信創出力であった。

- ✓ 業種別にみると、動物病院において「強み」となっているスキルは、対人基礎力領域の親和力と協働力の項目となった。また、TOP3業種において「課題」となっているスキルは、対自己基礎力領域となった。